## **１．人権について**

### **問１　人権についての関心度**

**あなたは、｢人権｣に関心を持っていますか。次の中から選んでください。（○は１つだけ）**

１．かなり持っている　　２．ある程度持っている　　３．あまり持っていない

４．まったく持っていない　　５．｢人権｣がどのようなものかわからない



全体集計

「ある程度持っている」の割合が60.6％と最も高く、「かなり持ってる」の9.1％と合わせると69.7％が人権に関心があるとしている。

③　あまり持っていない

②　ある程度持っている

⑤　人権｣がどのよう

　　なものかわからない

④　まったく持っていない

①　かなり持っている

一方、「あまり持っていない」の26.2％と「まったく持っていない」の2.1％を合わせた28.3％が人権に関心がないとしている。

性別集計



性別でみると、女性、男性ともに約7割の方が「かなり持っている」あるいは「ある程度持っている」と回答し、人権に関心があるとしている。

また、「あまり持っていない」と「まったく持っていない」を合わせた「人権に関心がない」割合は、女性（27.8％）よりも男性（29.0％）の方が1.2ポイント高くなっている。



年齢別集計

年齢別でみると、「人権に関心がある」で、最も高かった割合は70歳代で71.9％である。また、最も低かったのは30歳代で66.2％となっている。

過去の調査との比較

「人権に関心がある」割合について、前回の調査と比較した。



前回（平成25年度）調査と比較すると、「人権に関心がある」割合（「かなり持っている」と「ある程度持っている」を合わせた割合）は1.2ポイント増加している。

### **問２　関心のある人権問題**

**あなたは、「人権問題」というと、特にどのような問題に関心がありますか。**

**次の中から選んでください。（○はいくつでも）**

１．同和問題（部落差別）　　２．女性の人権問題　　３．子どもの人権問題　　４．高齢者の人権問題

５．障害のある人の人権問題　　６．外国人の人権問題（ヘイトスピーチなど）

７．アイヌの人々の人権問題　　８．犯罪被害者及びその家族の人権問題

９．刑事手続きに関わりをもった人（刑務所などを出所した人や被疑者、被告人）の人権問題

10．働く人の人権問題（職場におけるハラスメントの問題や長時間労働など）

11．ハンセン病（元）患者とその親族やエイズ患者・ＨＩＶ感染者等・難病患者の人権問題

12．インターネット上での人権問題

13．性的マイノリティの人々（同性愛者、性同一性障害、自分の性に違和感があるなどの人々）の人権

問題

14．ホームレスの人権問題　　15．拉致問題　　16．自死（自殺）に関わる人権問題

17．プライバシーの保護に関わる人権問題　　18．公権力に関わる人権問題　　19．特にない

20．その他（　　）

全体集計

「障害のある人の人権問題」の割合が 53.1％ と最も多く、次いで「同和問題（部落差別）」、「働く人の人権問題」が 43.6 ％ となっている。



性別集計

無回答 .

その他 .

特にない .

公権力に関わる人権問題 .

プライバシーの保護に関わる .

人権問題

自死（自殺）に関わる人権問題 .

拉致問題 .

ホームレスの人権問題 .

性的マイノリティの人々（同性愛者 .

、性同一性障害、自分の性に違和感

があるなどの人々）の人権問題

性別でみると、男女ともに「障害のある人の人権問題」の割合が最も高く、第2位は男性が「同和問題（部落差別）」、女性が「女性の人権問題」、第3位は男女とも「働く人の人権問題」となっている。

「女性の人権問題」が最も男女差が大きく、男性（33.0％）よりも女性（50.7％）の方が17.7ポイント高くなっている。

年齢別集計



年齢別でみると、10、20歳代では「女性の人権問題」、30歳代では「子どもの人権問題」、40歳代以上では「障害のある人の人権問題」の割合が最も高くなっている。

過去の調査との比較

割合が高い順に比較

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 　 | **前回（平成２５年度）** | **今回（令和元年度）** |
|
| 1 | 同和問題（部落差別） | 44.8% | 障害のある人の人権問題 | 53.1% |
| 2 | 障害のある人の人権問題 | 42.0% | 同和問題(部落差別） | 43.6% |
| 3 | 働く人の人権問題 | 36.7% | 働く人の人権問題 | 43.6% |
| 4 | 女性の人権問題　 | 34.9% | 女性の人権問題 | 43.0% |
| 5 | 子どもの人権問題 | 32.1% | 子どもの人権問題 | 39.4% |
| 6 | インターネットへの書き込みによる人権侵害問題 | 28.2% | インターネット上での人権問題 | 29.9% |
| 7 | 高齢者の人権問題 | 27.3% | プライバシーの保護に関わる人権問題 | 29.5% |
| 8 | 犯罪被害者及びその家族の人権問題 | 19.0% | 高齢者の人権問題 | 27.6% |
| 9 | 外国人の人権問題　 | 11.5% | 犯罪被害者及びその家族の人権問題 | 26.7% |
| 10 | 刑を終えた人及びその家族の人権問題 | 11.2% | 拉致問題 | 23.7% |
| 11 | エイズ患者・ＨＩＶ感染者等・ハンセン病（元）患者や難病患者の人権問題 | 11.2% | 性的マイノリティの人々の人権問題 | 20.1% |
| 12 | ホームレスの問題 | 10.1% | 外国人の人権問題 | 18.9% |
| 13 | 性同一性障害者の人権問題 | 9.8% | ハンセン病（元）患者とその親族やエイズ患者・ＨＩＶ感染者等・難病患者の人権問題 | 10.3% |
| 14 | 性的指向の異なる人の人権問題 | 7.5% | 刑事手続きに関わりをもった人の人権問題 | 9.8% |
| 15 | 特にない | 7.1% | 公権力に関わる人権問題 | 9.1% |
| 16 | アイヌの人の人権問題  | 4.7% | 自死（自殺）に関わる人権問題 | 7.8% |
| 17 | 無回答 | 2.2% | ホームレスの人権問題 | 7.0% |
| 18 | その他 | 1.0% | アイヌの人々の人権問題 | 6.3% |
| 19 | 　 | 　 | 特にない | 4.7% |
| 20 | 　 | 　 | 無回答 | 0.9% |
| 21 | 　 | 　 | その他 | 0.8% |

平成25年度調査と比較すると、前回第2位の「障害のある人の人権問題」の割合が5割を超え、第1位となっている。続く第2～4位の「同和問題（部落差別）」、「働く人の人権問題」、「女性の人権問題」の割合は4割を超え、依然として関心が高い項目となっている。

### **問３　自分が受けた人権侵害の有無**

**あなたは、過去約５年の間に、自分が差別や人権侵害を受けたと感じたことがありますか。**

**次の中から選んでください。（○は１つだけ）**

１．ある　　　　　　　　　　　　　問３－２、問３－３をお答えください

２．ない　　　　　　　　　　　　　問４にお進みください

３．わからない



全体集計

差別や人権侵害を受けたと感じたことが「ない」割合が75.5％と高くみられるものの、受けたと感じたことが「ある」は14.6％となっている。

性別集計



性別でみると、人権侵害を受けたと感じたことが「ある」割合は、男性（11.1％）よりも女性（17.2％）の方が6.1ポイント高くなっている。

年齢別集計



年齢別でみると、「ある」の割合は20歳代が25.6％と最も高く、次いで10歳代が19.2％、30歳代が17.2％となり、20歳代以上は年齢が高くなるにつれ、割合が減少する傾向がみられる。

過去の調査との比較



前回の調査と比較すると、人権侵害を受けたと感じたことが「ある」割合は2.3ポイント増加し、「ない」は3.3ポイント減少している。

### **問３－２　自分が受けた人権侵害の内容**

**問３で「ある」と答えた方におたずねします。それはどのような場合ですか。
　　　次の中から選んでください。（○はいくつでも）**

１．あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口　　２．仲間はずれやいやがらせ、いじめ

３．暴力や虐待　　４．自分には身に覚えのない理由による不平等または不利益な扱い

５．プライバシーの侵害　　６．個人情報が勝手に使われること

７．マイノリティを理由とする差別や偏見　　８．セクシュアル・ハラスメント

９．パワーハラスメント　　10．ストーカー行為

11．人種、信条、性別、社会的身分などによる政治的、経済的、社会的な差別

12．公的機関や企業などによる不当な扱い　　13．その他（　　）



全体集計

パワーハラスメント

ストーカー行為

人種、信条、性別、社会的身分などによる政治的、経済的、社会的な差別

公的機関や企業などによる不当な扱い

その他

無回答

問3の「差別や人権侵害」を受けた内容について、「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」の割合が41.7％と最も高く、次いで「パワーハラスメント」が35.9％、「仲間はずれやいやがらせ、いじめ」が25.2％となっている。



性別集計

無回答

その他

公的機関や企業などによる不当な扱い

人種、信条、性別、社会的身分などによる

政治的、経済的、社会的な差別

ストーカー行為

パワーハラスメント

マイノリティを理由とする差別や偏見

性別でみると、男性は「パワーハラスメント」の割合が最も高く、次いで「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」、「自分には身に覚えのない理由による不平等または不利益な扱い」の順となっている。

女性は「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」が最も高く、次いで「パワーハラスメント」、「仲間はずれやいやがらせ、いじめ」の順となっている。

「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」が最も男女差が大きく、男性(28.1％)よりも女性（48.2％）の方が20.1ポイント高くなっている。



年齢別集計

年齢別でみると、10、20歳代、70歳以上は「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」、30、50，60歳代は「パワーハラスメント」、40歳代は同率で「あらぬうわさ、他人からの悪口、かげ口」、「パワーハラスメント」の割合が最も高くなっている。

※表中の○数字は、各年齢層で割合が高かった上位3項目を示しています。

### **問３－３　人権侵害を受けたときの対応**

**問３で「ある」と答えた方におたずねします。その時どうされましたか。**

**次の中から選んでください。（○はいくつでも）**

１．友だち・同僚に相談した　　２．家族・親戚に相談した　　３．職場の上司に相談した

４．弁護士に相談した　　５．警察に相談した　　６．法務局や人権擁護委員に相談した

７．地方自治体（県や市）に相談した　　８．民間団体に相談した　　９．自分で解決した

10．何もしなかった、我慢した　　11．相談する場所を見つけられなかった

12．相手に直接抗議した　　13．その他（　　）



全体集計

その他

無回答

相手に直接抗議した

相談する場所を見つけられなかった

差別や人権侵害を受けたと感じたときの対処方法について、「友達・同僚に相談した」の割合が39.3％と最も高く、次いで「何もしなかった、我慢した」が38.3％、「家族・親戚に相談した」が35.0％となっている。



性別集計

性別でみると、男性は「何もしなかった、我慢した」の割合が最も高く、次いで「友だち・同僚に相談した」、「家族・親戚に相談した」の順となっている。

女性は、「友だち・同僚に相談した」が最も高く、次いで「家族・親戚に相談した」、「何もしなかった、我慢した」の順となっている。

「家族・親戚に相談した」が最も男女差が大きく、男性（20.3％）よりも女性（41.7％）の方が21.4ポイント高くなっている。



年齢別集計

年齢別でみると、10歳代は同率で「家族・親戚に相談した」、「何もしなかった、我慢した」、20、40歳代は「友だち・同僚に相談した」、30歳代、50歳代以上は「何もしなかった、我慢した」の割合が最も高くなっている。

### **問４　虐待を受けていることを知ったときの対応**

**あなたは、子ども、配偶者、高齢者、障害のある人等への虐待や暴力が、身の回りで起きていることを知ったらどうしますか。次の中から選んでください。（○は３つまで）**

１．虐待や暴力を受けている本人に事情を聞く

２．問題が起きている家族やその親戚に事情を聞く

３．近所の人、近くに住んでいる友達に相談する

４．行政機関、法務局、人権擁護委員に相談する

５．児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、

警察などへ通報する

６．弁護士に相談する　　７．ＮＰＯやボランティア団体などの支援団体に相談する

８．子どもの通っている保育所、学校などに相談する

９．どこ（だれ）に知らせたらいいのかわからない

10．何もしない　　11．わからない　　12．その他（　　）

全体集計



「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が52.4％と最も高く、次いで「虐待や暴力を受けている本人に事情を聞く」が42.3％、「行政機関、法務局、人権擁護委員に相談する」が24.2％となっている。



性別集計

性別でみると、男女ともに「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が最も高く、次いで「虐待や暴力を受けている本人に事情を聞く」となっている。

第3位は、男性が「行政機関、法務局、人権擁護委員に相談する」、女性が「近所の人、近くに住んでいる友達に相談する」となっている。

「近所の人、近くに住んでいる友達に相談する」が最も男女差が大きく、男性（16.4％）よりも女性（25.4％）の方が9.0ポイント高くなっている。



年齢別集計

年齢別でみると、10～40歳代は「虐待や暴力を受けている本人に事情を聞く」、50歳代以上は「児童相談所、配偶者暴力相談支援センター、地域包括支援センター、障害者虐待防止センター、警察などへ通報する」の割合が最も高くなっている。

### **問５　講演会や研修会への参加の有無**

**あなたは、過去約５年の間に「人権問題」に関する講演会や研修会に参加したことがありますか。**

**次の中から選んでください。（○は１つだけ）**

１．ある

２．ない 　 　　　問５－２をお答えください



全体集計

「人権問題」に関する講演会や研修会への参加について、「ある」の割合が23.0％、「ない」が76.0％となっている。

性別集計



性別でみると、参加したことが「ある」割合は、女性(19.2%)よりも男性(28.4%)の方が9.2ポイント高くなっている。



年齢別集計

年齢別でみると、参加したことが「ある」割合は、10歳代が最も高く、次いで20歳代、40歳代の順となっている。

過去の調査との比較



前回の調査と比較すると、参加したことが「ある」割合は4.6ポイント高くなっている。

### **問５－２　講演会や研修会に参加しない理由**

**問５で「ない」と答えた方におたずねします。あなたが講演会や研修会に参加しなかった理由を、次の中から選んでください。(○は１つだけ）**

１．参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった

２．参加したかったが、時間的余裕がなかった

３．｢人権問題」について理解できているので、参加する必要がなかった

４．講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった

５．｢人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった

６．講演会や研修会があったことは知っていたが、参加する意志がなかった　　７．その他（　　）



全体集計

「参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった」の割合が23.0％と最も高く、次いで「｢人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった」が19.6％、「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」が16.5％となっている。



性別集計

性別でみると、男性は「「人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった」の割合が最も高く、次いで「参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった」、「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」の順となっている。

女性は「参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった」の割合が最も高く、次いで「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」、「｢人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった｣の順となっている。

「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」が最も男女差が大きく、男性(12.4％）よりも女性（19.6％）の方が7.2ポイント高くなっている。



年齢別集計

年齢別でみると、10歳代、50歳代以上は「参加する意志はあるが、講演会や研修会の情報が得られないので参加する機会がなかった」、20、40歳代は「講演会や研修会は難しそうなので、何となく参加しなかった」、30歳代は「｢人権問題」にあまり関心がないので、参加しなかった｣の割合が最も高くなっている。